

# 週間タイル NEWS

株式会社サンワ 定期発行



※左記図は東海湖をイメージしたものになります。

## なぜ多治見で良質な陶土が採れるのか

東濃地方（岐阜県南東部、多治見市・土岐市・瑞浪市付近）は、日本有数の陶磁器産地であり、美濃焼やタイル産業の原料となる良質な陶土が豊富に産出されます。

ではここでなぜ多治見で良質な陶土がとれるのか見てみましょう。

東濃地方で良質な粘土が豊富に取れる理由は、今から 500～400 万年前に遡ります。東方（現中央アルプス木曾山脈）の隆起に伴い、現在の濃尾平野を中心とした一帯の沈降が進み、巨大な淡水湖である「東海湖」が出現しました。東濃地方一帯は当時東海湖の湖底に位置していました。

火山でマグマがゆっくり冷えて固まり、深成岩の一種「花崗岩（別名・御影石）」が形成され、風雨や寒暖などによる風化作用で、「風化花崗岩（藻珪）」（今の陶磁器の原料）となりました。それが東海湖に流れ込み、アルカリ質が抜けて粘土化したことで、大量の粘土鉱物が生成されました。本来であれば川で運ばれた細かな土砂は海まで流されて堆積しにくいところ、東海湖が「天然の沈澱池」の役割を果たしました。その中で粘土が湖内で沈殿して堆積していきました。

このように東海湖があったことで、粘土が堆積しました。東海湖はなくなりましたが、この堆積した粘土層はその後も残り、東濃地方に豊富な陶土資源として受け継がれていきます。

### ピックアップ

花崗岩とは



マグマが地下の深い場所でゆっくりと冷え固まってできる「深成岩」で、主に石英、長石、雲母といった鉱物から構成されており、硬くて丈夫な岩石です。

磨くと光沢が出て耐久性も高いため、墓石、建築材料、道路の舗装など幅広い用途に利用されます



多治見の陶土が豊富な理由をまとめました。

1. 多治見含めて東濃地方は、数百万年前、東海湖の湖底で、粘土質の堆積物が厚くたまっていった。
2. 木曽山脈などの花崗岩が長い時間をかけて風化し、長石が分解されて、粘土が大量に生じ、川によって運ばれてきた。
3. 火山活動により飛来・堆積した火山灰や凝灰岩が時間とともに粘土化し、純白の粘土を形成して堆積されるようになった。
4. 河川の自然水簸作用できめ細かな粘土層が形成された。  
※水簸とは土を水でかき混ぜて沈む速度の違いを利用して、不純物を取り除き粒子の細かい粘土を採取する技術のことを指します。
5. 東海湖が数百万年にわたり存在したことで分厚く堆積されたことで、今の陶土資源があります。

## 蛙目粘土

日本が誇る世界最高の可塑性を持つ白粘土で、濡れると珪石粒が蛙の目に見えることから言われています。



## 木節粘土

日本が誇る世界最高の可塑性を持つ白粘土。蛙目より細かく、珪化木や木っ端を含む。



## 藻珪

主に陶磁器の原料として用いられる長石を主成分とする花崗岩が風化した砂のこと



## 時代を継承する

陶土が豊富だからこそ、この地域性から美濃焼の文化はここから始まり、産業が発展していくことで、タイルへと繋がっている。

今、使っている食器、タイルが何百年前からの贈り物って考えると結構ロマンありますよね。タイルはそんな太古の自然からの恩恵からできていると考えると見る目が変わりますよね。